講義名	ブライダルコーディネーション論III					授業形態	
担当教員	道前　美佐緒	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 ４時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

ブライダルコーディネーションⅠ、Ⅱを経て、公益社団法人日本ブライダル文化振興協会（BIA）認定のアソシエイト・ブライダルコーディネーター検定へチャレンジするための授業です。同時に、国家検定ブライダルコーディネート技能士３級合格も視野に入れて学びます。ブライダルコーディネート技能士検定は、筆記試験と実技試験があり、実技試験で求められるマナーや対話能力の向上も図ります。

到達目標

1.ブライダルに関する用語を身につけ、活用できる。
2.ブライダルコーディネーターの業務を理解し、必要な基礎知識を身につける。
3.授業内でのロールプレイングを通して、打ち合わせに必要な話術を修得する。
4.アソシエイト・ブライダルコーディネーター認定資格を取得することができる。
5.ブライダルコーディネーター技能士３級合格相当の知識を修得できる。

提出課題

小テストと検定対策試験

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

小テスト及び検定対策試験の設問について解説します。

評価の基準

授業への取り組み姿勢　　２０％
筆記試験　　８０％

履修にあたっての注意・助言他

アソシエイト・ブライダルコーディネーター及び、ブライダルコーディネート技能士３級合格には、ブライダルコーディネーションⅠ、Ⅱ及びブライダル事業論を履修し、知識を修得することが必要です。

教科書

.ブライダルコーディネーターテキスト　スタンダード.	（公社）日本ブライダル文化振興協会人材育成委員会	（公社）日本ブライダル文化振興協会	3850	

参考図書

その他

必要に応じて資料を授業内で配布、もしくは、ポータルにアップします。

授業計画

1.ガイダンス：ウェディングプランナーの業務
2.打合せ業務
3.初回打合せ
4.テーブルプラント配席表
5.ペーパーアイテム・ウェルカムアイテム
6.衣装・ヘアメイク・装花
7.写真・映像・演出、BGMの著作権
8.料理・飲料・サービスの基礎知識
9.婚約・結納と引き出物
10.当日の業務
11.ブライダルビジネスの近年の動向
12.検定対策
13.検定対策
14.模擬試験
15.模擬試験

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

次の授業で扱う教科書の範囲をお伝えしますので、教科書を予め読み、質問を考えて来て下さい（予習１２０分程度）。授業で得た専門用語や知識は、復讐で確実に覚えるようにしてください（復習１２０分）検定対策は、間違ったところを再確認し、覚えるまで繰り返し行ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目は、ブライダル関連企業での就業に必要な知識を学び、国家検定合格へ導くものです。
検定合格という明確な目標に向かって努力し、専門知識を深めることは、本学の学位認定・学位授与の方針と一致します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

テキストの内容に基づき情報収集したうえでのディスカッションやグループワークを行います。それらを通して、新たな発想や他者理解の視点を得ることができます。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。（公社）日本ブライダル文化振興協会任命　ブライダルコーディネート職種技能検定「指定試験機関技能検定委員」として、国家検定ブライダルコーディネート技能士の問題策定会議に参加し、１、２級の実技試験の試験観を勤めています。ホテルバンケットマネージャーコンベンションでの講演や若手コンベンションの審査員などを勤め、業界の発展に努めてきました。また、行政の喫緊の課題である婚姻率アップの為、四日市市の婚活支援事業に参画するなどしてきました。ブライダルプロデュース会社経営、結婚式場顧問など、ブライダル業界を中心に広く企業の人材育成を担った経験を活かし、これからのブライダル業界に求められる発想力や実行力を養います。

備考